

60094

教科書文庫

6
420
34-1950
01304 49625



Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

© Kodak, 2007 TM: Kodak

inches 1 2 3 4 5 6 7 8
cm 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20

Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

© Kodak, 2007 TM: Kodak



教育部
資料室

文部省検定済教科書

1	1
学	図
小 理 3 0 0	

三年生の理科

教科書文庫
6
420
34-1950
0130449625



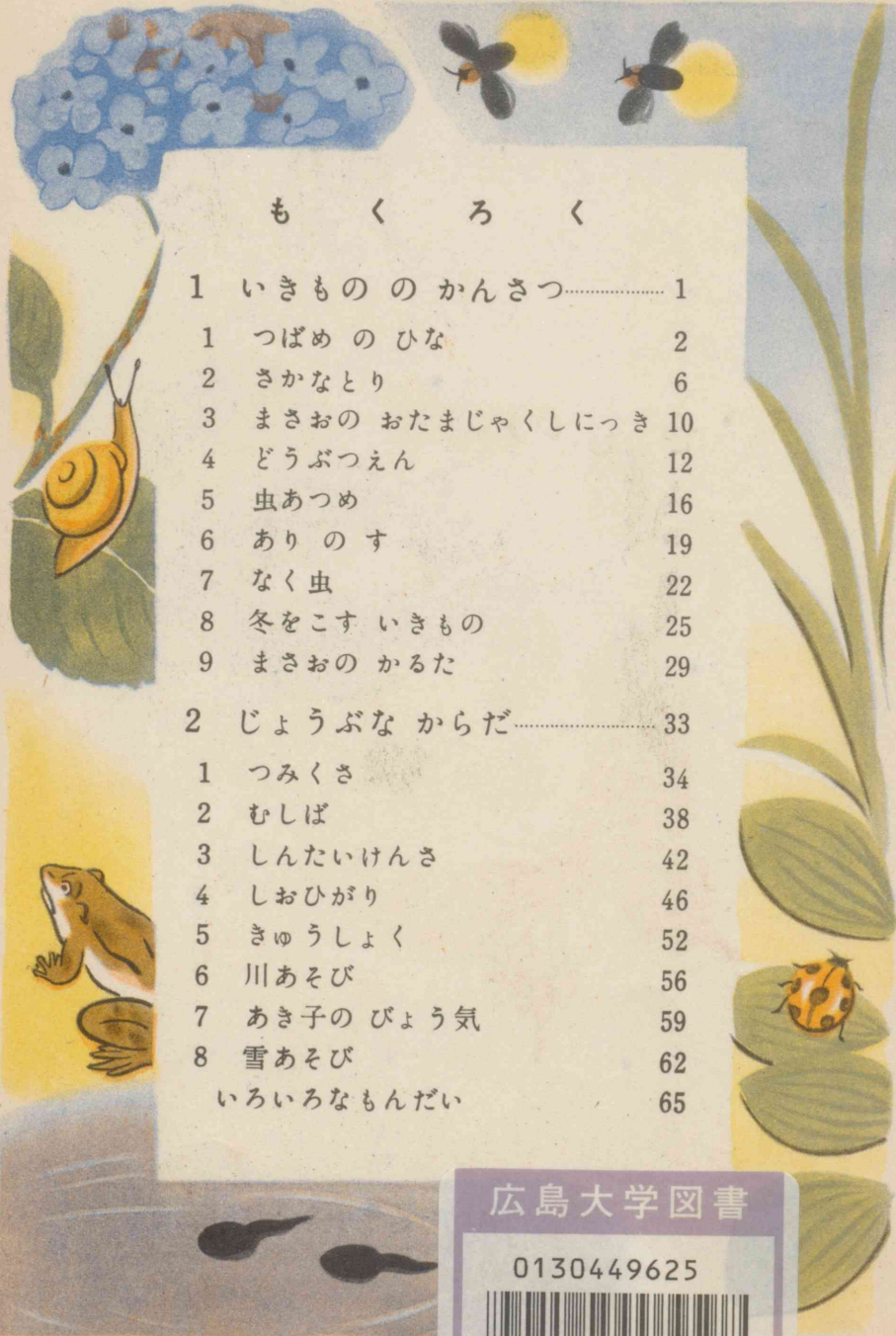
広島大学図書

0130449625

学校図書株式会社



中央図書館



もくろく

1	いきもののかんさつ	1
1	つばめのひな	2
2	さかなとり	6
3	まさおのおたまじゃくしにつき	10
4	どうぶつえん	12
5	虫あつめ	16
6	ありのす	19
7	なく虫	22
8	冬をこすいきもの	25
9	まさおのかるた	29
2	じょうぶなからだ	33
1	つみくさ	34
2	むしば	38
3	しんたいけんさ	42
4	しおひがり	46
5	きゅうしょく	52
6	川あそび	56
7	あき子のびょう気	59
8	雪あそび	62
	いろいろなもんだい	65

広島大学図書
0130449625


寄小題

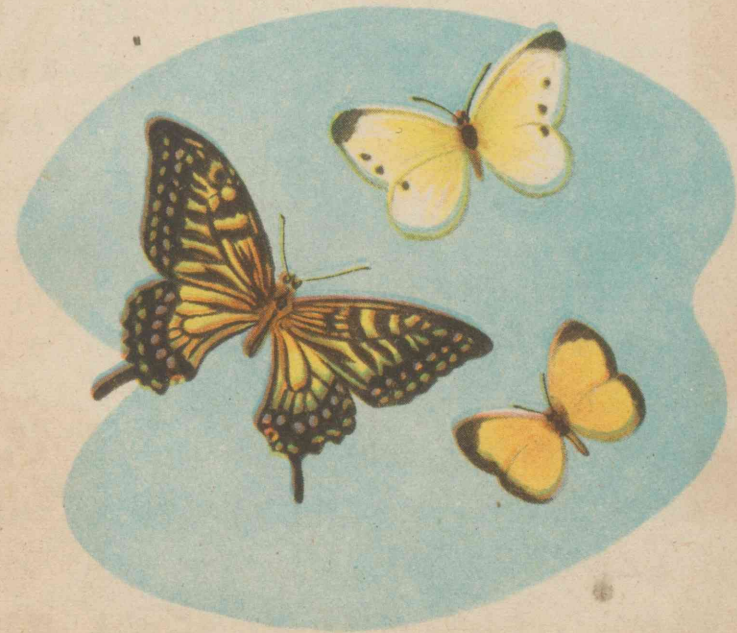
昭和 25 年 月 日 文部省検定済小学校理科用

教科書文庫
6
420
34-1950
0130449625

三年生の理科

1
広島大学図書
0130449625


いきもののかんさつ



学校図書株式会社
教育學部圖書



1 つばめのひな

4月のなかごろでした。まさおのうちののき下に、つばめがすをつくりはじめました。せなかには黒で、ほほは白く、くびのところがすこしちゃ色の2わのつばめです。

つばめは、せつせと、口ばしにつちをくわえてきては、すに、はこん

でいます。

「どこへ、つちをとりにいくのかしら。」

と、思って、まさおは、つばめのゆくえを、かんさつしてみることにしました。つばめは、とぶのが早いので、なかなか、うまくいきませんでした。とうとう、うらのたんぼのあぜにいるところを見つけました。つばめは、どこからか、わらをくわえてきて、そこでつちにまぜるのです。そして、それを おだんご のようにして、口にくわえていくのでした。まさおは、すっかり、かんしんしてしまいました。10日ぐらいで、すは、ぜん



ぶできあがりました。

5月のあるあさのことです。

「チュ、チュ、チュ」と、かわいいひなのなきごえがします。もう、ひなが、かえったらしいのです。おやつばめは、せつせと、えをはこんでいます。

小さなひなたちは、おやつばめのすがたをみると、いっせいに、き色の口ばしをあけて、「チュ、チュ、チュ」と、なきたてます。とてもにぎやかです。おやつばめは、いろんな虫をくわえてきては、まん中のひなにやったり、となりのひなにやったりしています。

「どこから虫をとってくるの。」

と、まさおは、にいさんに、たずねました。にいさんは、

「たんぼやはたけに出てごらん。つばめが空をとびながら、虫をとらえているよ。わるい虫をとらえてくれるから、おひゃくしょうさんのおてつだいをしているようなものだ。こんなかんしんな鳥だから、たい



せつにしてやらなくては
いけないよ。」
と、いいました。

ある日のことです。大へ
んなことがおこりました。
それは、かわいい1わのひ
なが、どうしたことか、高
いすから、下におちてし
まったのです。

おやつばめは、「チェ、
チェ、チェ」と、きちがいの
ように、あたりをとびまわ
っています。

でも、いいあんばいに、
ひなには、けががないよう
です。にいさんにはなして、
そっと、そのすの中にい
れてやってもらいました。

こしあかつばめ



つばめ



いわつばめ



こしあかつばめのす



いわつばめのす





2 さかなとり

「あっ、とれた、とれた。こんどは ふな が2ひきとれたよ。」

「わあっ、これで、8ひきになるよ。」

「まさおくん、こんどは、めだかをとろうよ。」

「めだかは、こんな水のあさいたんぼより、小川の方に、たくさんいるよ。」

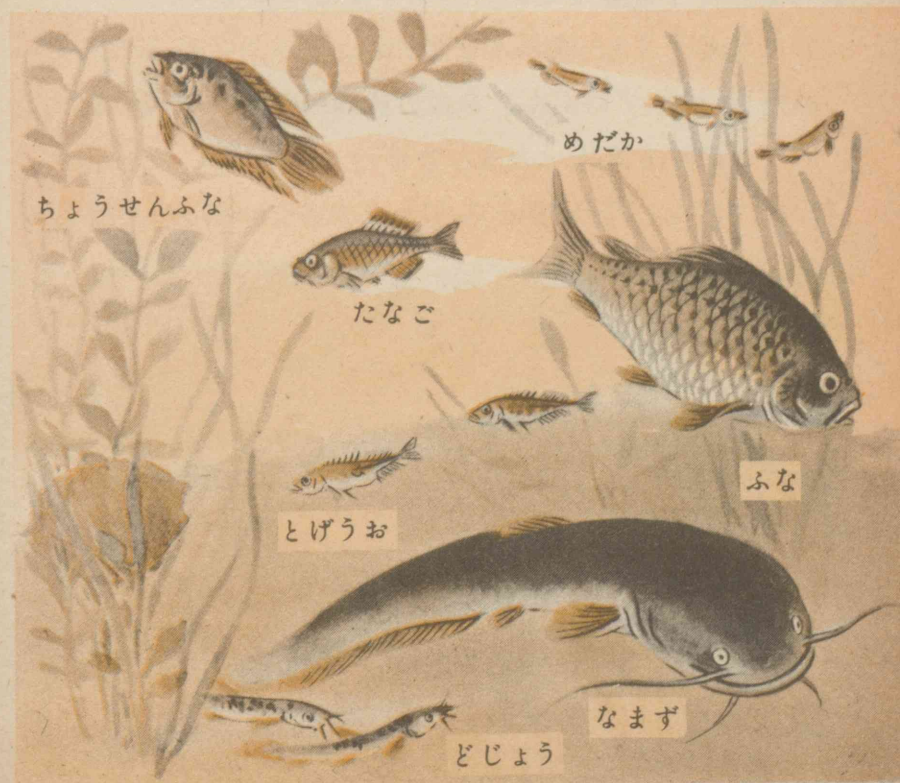
「うん、ほくも、このあいだ、にいさんといっしょに、小川でたくさんとったよ。」

みんなは、小川の方へいきました。まさおのいうとおり、小川には、めだかがたくさんおよいでいました。めだかは水のながれにむかって、ひれをたえずうごかしながらおよんでいます。まさおは、そっと、ちかづいて、じゃぶんと、あみですくいました。けれども、1ひきも

とれませんでした。みんな、にげてしまったらしいのです。

それから、みんなでいろいろくふうしながら、やっと、6ひきとりました。まさおたちは、どことなくふうをしたのでしょう。

みのるが、水くさのあいだに、あみをいれて、すくいあげてみると、えびがたくさんとれました。なんかいもやっているうちにげんごろうやみずかまきりなど、いろいろな虫がとれました。



「水くさの中には、どうして、こんなに、いろいろな虫がすんでいるのだろう。」

と、まさおがいました。みんなは、いろんなことをいいましたが、よくわかりません。

「どうもわからないね。先生に、くわしく、そのわけをたずねてみよう。」

と、まさおがいました。

道ばたでは、とし子とじろうとよしおの3人が、バケツにあたまをよせて、めだかやおたまじゃくしのようすをのぞきこみながら、話しあっています。

「おたまじゃくしはおとなしいね。」

「めだかは、ずいぶん、あばれんぼうだね。そら、また、バケツにつきあたったよ。」

「おや、げんごろうが、みずかまきりとけんかをはじ



めたよ。これはたいへん、早く学校にかえって、いれものにうつしかえてやろうよ。」

「げんごろうは、ふなやおたまじゃくしといっしょにしておくとおだめだよ。みんな、食べてしまうからね。」

と、じろうがいました。

「べつべつのびんにうつして、かきましょう。そうして、かんさつにつきもつけるといいわ。」

「それがいいね。それはそうと、ふなやおたまじゃくしには、どんなえさをやったらいいだろうな。」

みんなは、そんな話をしながら、かえりました。

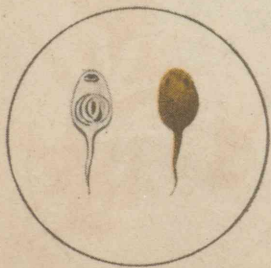
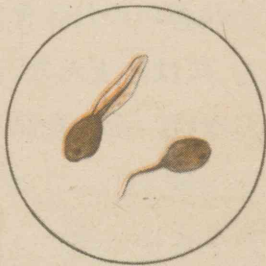




3 まさおの おたまじゃくしにつき

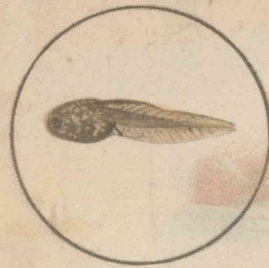
5月5日 はれ

きょう、たんぽで、おたまじゃくしを、たくさんとってきました。ガラスのいれものに入れて、その中へ、小川の水くさや、小石をいれました。おたまじゃくしは、ときどき、水くさをつついています。大きさは、2センチぐらいです。



5月10日 くもり

おたまじゃくしは、とてもげんきです。かつおぶしをけずってやると、みんな、あらそってたべます。おなかに、うずまきのようなものが見えます。

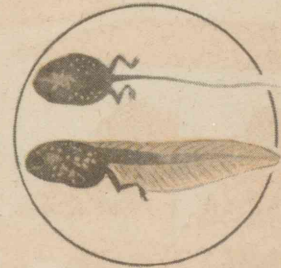


5月18日 くもり

ときどき水の上にあがってきます。しっぽのつけねに、なにか黒いものがみえます。しげるくんが、「あれは、きっと足だよ。」と、いいました。

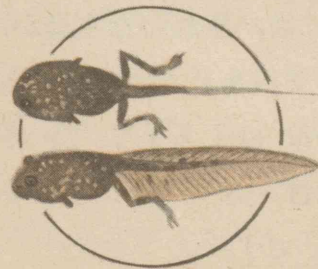
5月25日 はれ

うしろ足が1センチほどにのびました。からだも、4センチぐらいあります。まだ、まえ足はでません。ゆでたまごのきみをやると、とてもよろこんでたべます。



5月31日 雨

まえ足が、ちょっと、でかけています。うしろ足も、ずいぶん長くなりました。からだの長さは、5センチほどです。



6月5日 はれ

まえ足が、すっかり出てきました。しっぽがだんだんみじかくなってきました。もうすぐかわいいかえるになることでしょう。





4 どうぶつえん

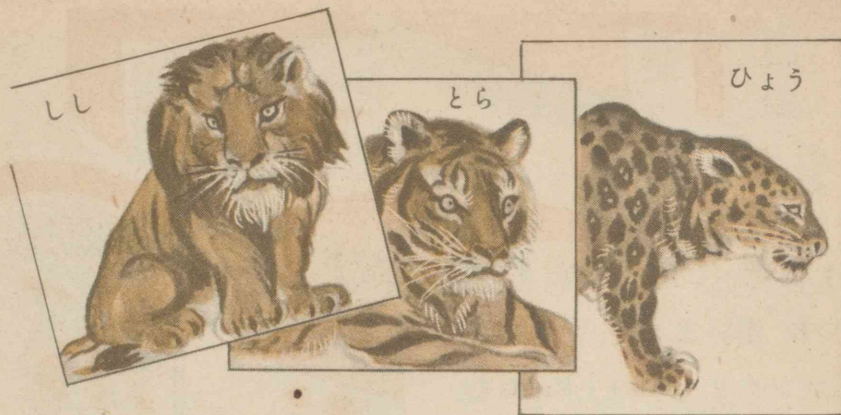
まさおは、にいさんといっしょに どうぶつえん へいきました。いり口で きつぷ をかかって、中にはいりました。

すぐひろばがあつて、おいけには、きれいな水鳥が、およいでいました。白くて大きいのははくちょうで、小さいのは、おじどり、あひる、まがもです。



すこしくと、たぬきと きつね がありました。たぬきは、コンクリートの上に、ねむっていました。きつねは、耳が長くて、しっぽがふさふさしています。からだは、き色とちや色のまざったような色です。おりの中を、あちこち、あるいていました。

そのとなりは、あいきょうもののさるです。さるは、ぶらんこにのったり、木のえだにぶらさがったりして、



みんなをわらわせました。

すこしいくと、カンガルーがいました。カンガルーのおかあさんは、こどもを、おなかのふくろに入れて、ぴよんぴよんとびます。

そのとなりは、きりんでした。きりんは、せいが高く、くびが長い動物です。くびをのばすと、高い木のえだにとどきます。まさおが、どうぶつえんの人に、

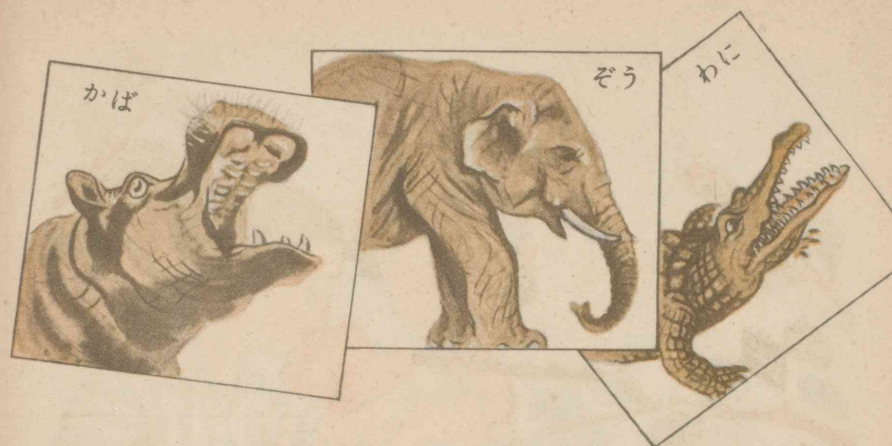
「このきりんは、どこで生まれたのですか。」

と、たずねますと、

「このきりんは、日本のどうぶつえんで生まれたのですよ。でも、このきりんたちのすんでいる国は、とおいアフリカという、あつい国です。」

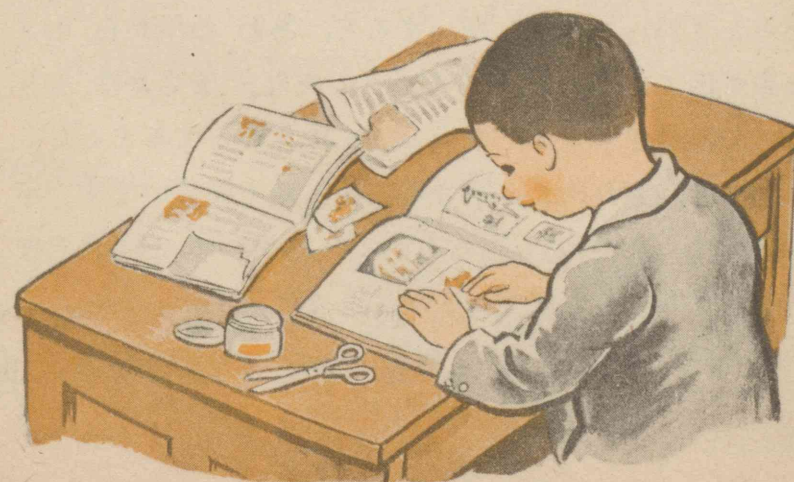
と、おしえてくださいました。

それから、くじゃくのはねをひろげるところや、らくだ、くま、わに、しちめんちょうなどをみてかえりました。



かえり道で、ライオン、とら、ひょうなどのどうぶつえはがきをかいました。家へかえってから、しんぶんや、ふるいざっしの中のどうぶつえのえやしんをきりぬいて、ちょうめんにはりました。きれいな「どうぶつあつめ」の本ができました。

また、あつがみで、いろいろのどうぶつを作って、ひろ子とふたりで、どうぶつごっこをしました。





5 虫あつめ

にわのすみのやまぶきに、白いあわがあちこちついていました。まさおは、ふしぎに思って、ぼうでそっとさわってみました。すると、あわの中から、小さな虫が出てきました。「おや、へんだな。」まさおは、そう思って、つぎつぎに、白いあわにさわってみました。

すると、どれにも、小さな虫が、かくれています。小さな虫は、あわから出たりかくれたりしてかくれんぼでもしているようです。先生にたずねると、

「これは、あわふきむしだよ。じぶんのからだから、あわを出して、その中にかくれているのです。おもし

ろいものを見つけましたね。」と、おっしゃいました。

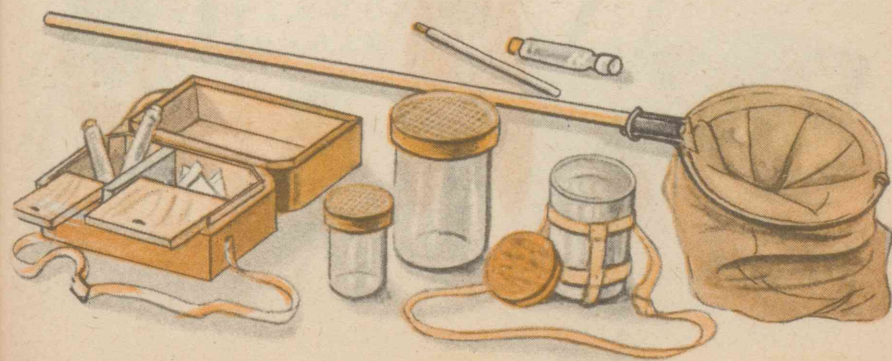
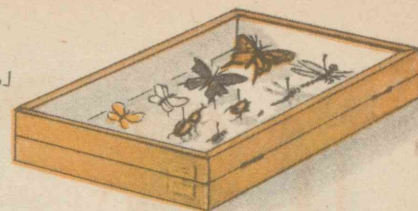
それから、みんなで、おにわじゅうをさがしまわって、あわふきむしをさがしたり、いろいろの虫あつめをしました。

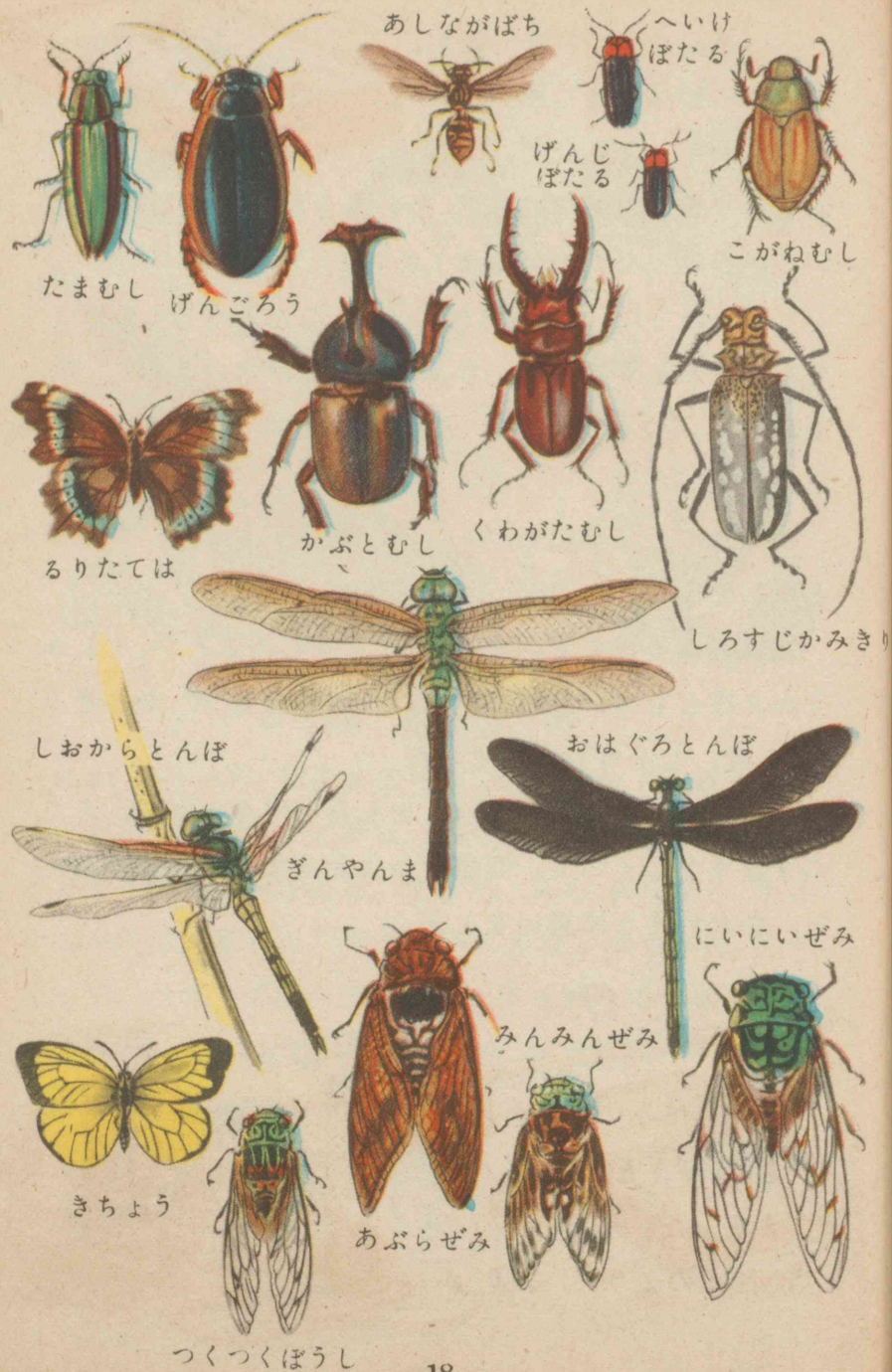
しげるたちは、こがねむしや、てんとうむしだましをたくさんとりました。さぶろうたちは、いもむしや、あおむしをとりました。よしおたちは、かみきりむしをとりました。

みんなで、この虫を、びんやはこに入れて、かうことにしました。

だいじにそだてていましたが、どうしたことが、1しゅうかんほどして、びんの中のこがねむしやかみきりむしは、しんでしまいました。

もっと、すきなたべものをしらべてやったり、ふたのすきまをつくって、空気をかよわせてやればよかったと、かわいそうに思いました。





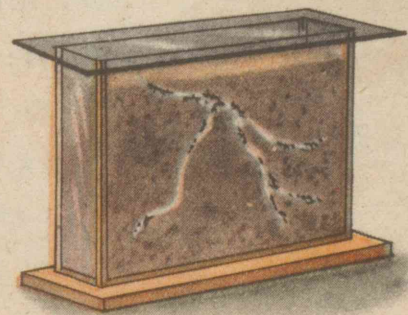
6 ありのす

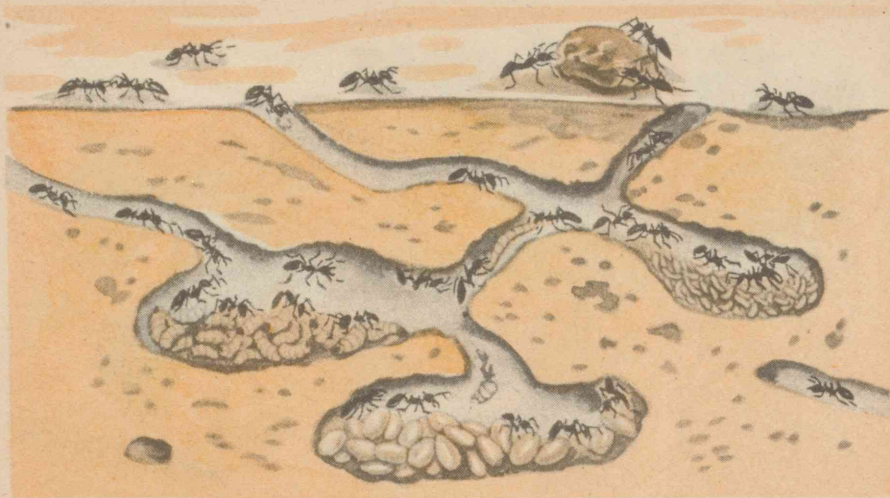
まさおはにわのすみでありのすを見つけました。たくさんのありが小さなあなから、出たりはいったりしています。

まさおは、あなのそばに、ビスケットのかけらをおきました。すると、1びきのありがそれを見つけ、さわっています。そしてありは、いそいで、すの中にはいっていきました。

「ともだちをよんでくるのかな。」

と、思っていると、2ひき、3ひきと、ありが出てきました。みるみるうちに、黒山のように、ありが





あつまってきました。いそがしそれに、ビスケットの小さいかけらをくわえて、せっせとすにはこびはじめました。大きいかけらは、2ひきも3ひきも、力をあわせて、ひいていきました。

まさおは、ありのすがみたくなつたので、あなをのぞいてみました。あなはふかくて、中のようなすがよくわかりません。まさおはぼうでありのすをこわしてみようと思いました。すると、にいさんが、それを見つけて、

「かわいそうだから、やめなさい。ありのすをしらべるよいしかたをおしえてあげよう。小さなびんか、ガラスを2まいならべて作ったはこに、すなをいれて、その中に、



ありをいれてからんだ。そして、それにはふたをして、ときどき、たべものをいれてやると、ありは、すなをほって、長いトンネルのようなすを作るよ。」

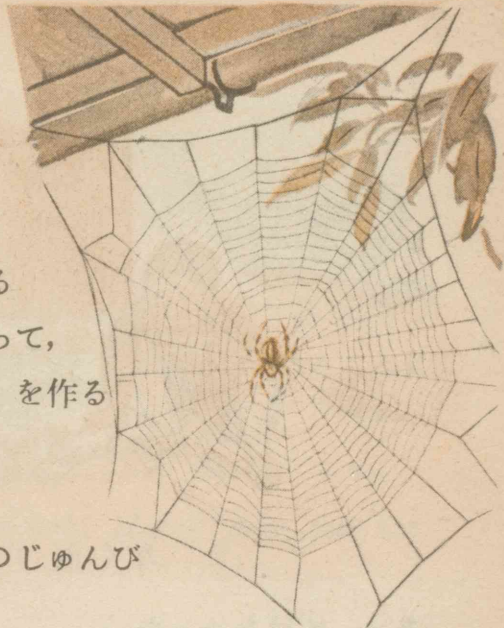
と、いいました。

まさおは、さっそく、そのじゅんぴをはじめました。

わたくしたちも、このようにして、しらべてみましょう。ありのほかにはちやくもや、いろいろのいきものについて、そのすのようすをしらべてみましょう。

あかげらとそのす

りすとそのす





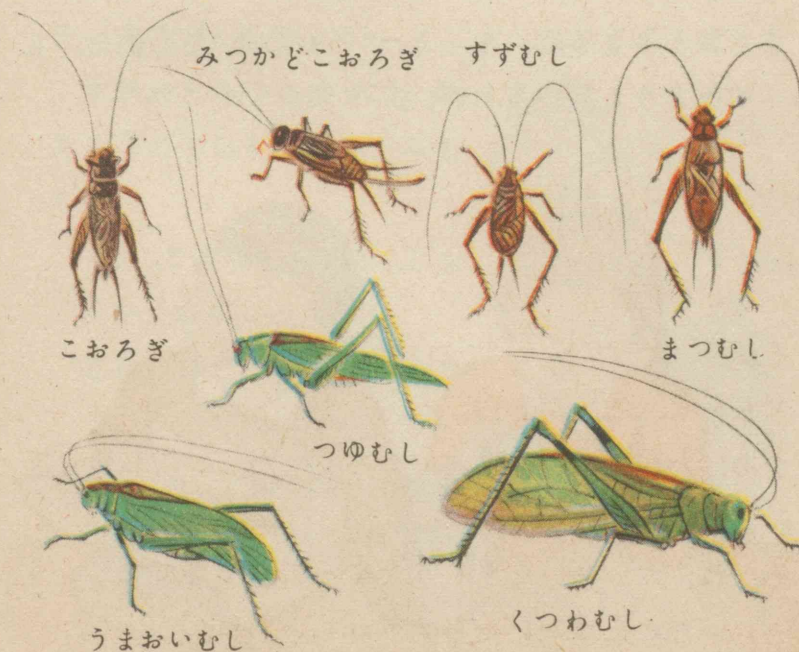
7 なく虫

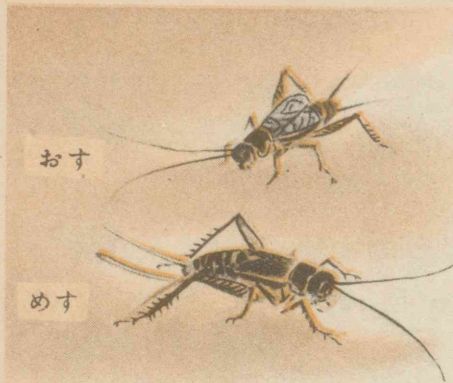
「あっ、にげちゃった。」
 「わたし、1ぴきつかまえたわ。」
 「こんなごみためや、わらの下などにたくさんいるんだ。」
 「石の下などにもいるわ。」
 「あっ、また、1ぴき。大きなこおろぎ。」
 「おしりのけんの長いのと、みじかいのといるわね。」
 「それは、めすとおすのちがいだよ。きっと。」
 「どちらも、なくかしら。」
 「さあ、わからないなあ。おうちで、かって、しらべてみよう。」
 「そうね。おいしいごちそうをやって、そだてましょう。きれいなこえでないと、うれしいわね。」
 ふたりは、とったこおろぎを、びんにいれて、もっ

てかえりました。それから、ボールばこのふたをきりぬいて、セロハンをはり、中がみえるようにしました。はこのよこに、きりで、小さなあなをたくさんあけました。

こおろぎをうつしてから、なすときゅうりをきって、いれてやりました。へやのすみのくらいところにおくと、やがて、

「コロコロコロ……………コロ・コロコロ。」
 と、なきだしました。ふたりは、思わずかおをみあわせました。





「コロ コロ コロ……
コロ コロ コロ……。」
また、なきだしました。
そっと、のぞいてみると、
こおろぎは、はねをひ
ろげて、ふるわせながら、
ないています。それは、

みんな、けんのみじかい こおろぎでした。

にいさんのお話によると、なくのは おす だそうです。
そうして、おすは、はねのもようでも、すぐみわけが
つくそうです。

まさおとみよ子は、もっと、いろいろな なく虫を、し
らべてみようと思いました。



8 冬をこす いきもの

だんだん、さむくなってきました。にわの木のは
もおおかたおちて、にぎやかにないていた虫の声も、き
こえなくなりました。小さい虫たちは、どこへいってし
まったのでしょうか。

まさおとみのるは にわの
あちらこちらをさがしてみました。

「やあ、こんなところに くも
がかくれていたよ。」

「さむいから、木の かわの
うらにかくれているんだね。」

「おや、あの もみじの えだ
に、へんなものがぶらさが
っているよ。」

「ほんとだ。おひやくしょう



さんのきるみのようだね。おや、中に虫がいるよ。」

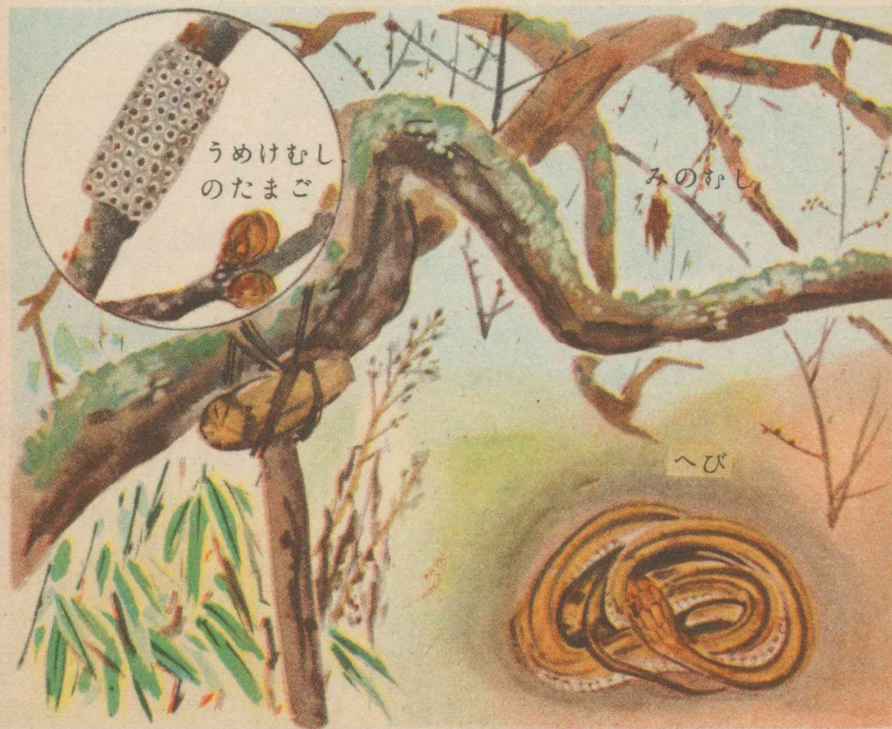
「あ、そうだ。これは、本でみたみのむしだよ。みのむしは、じぶんで木のはやごみくずをあつめて、こんなふくろを作って、すんでいるとかいてあったよ。」

「じょうずに作るものだね。」

「あのえだに、なにか白いたまごがついているね。」

「あ、あれ、なんのたまごかしら。」

「さあ、ぼくにも、よくわからないな。りかの本でしら

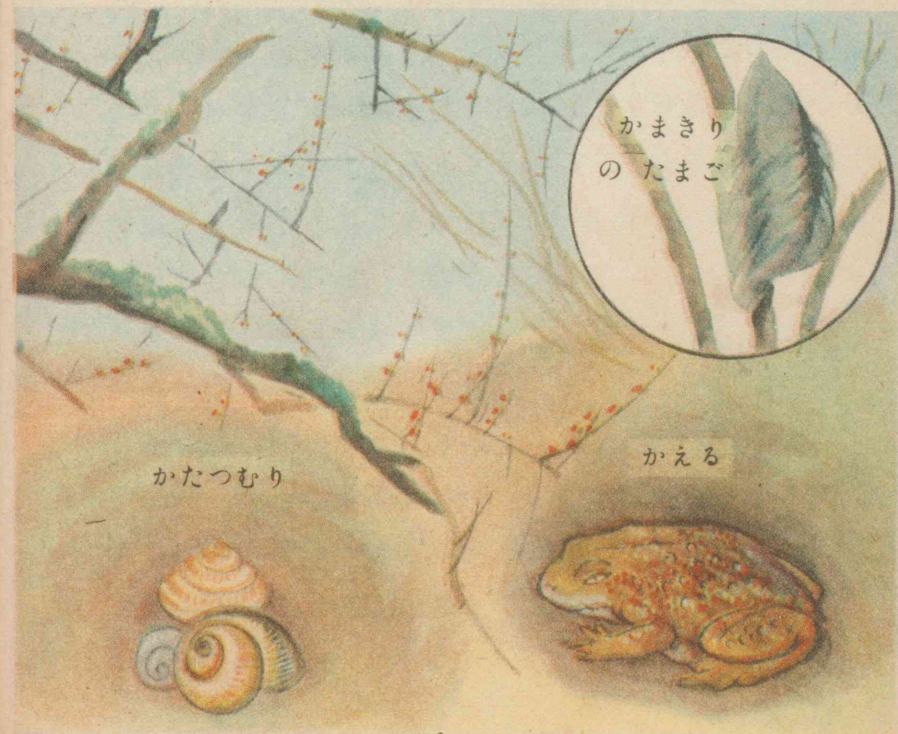


べてみよう。」

「やあ、かたつむりをみつけたよ。おや、しんでいるのかな。からの中に、うすいかみのようなものが、ついているよ。」

「どれどれ。しんでいるのではないだろう。きっと、かたつむりもこうして冬のあいだ、ねむっているんだろう。そして、あたたかい春のくるのをまっているんだよ。」

「小さな虫でも、さむさをよけるために、いろいろ、くふうしているんだなあ。」





そこへ、まさおのにいさんが出てこられました。
 まさおはにいさんに、かえる や かめ は、つちの中
 にかくれて、冬をすごすことや、りす や くま はあな
 の中にうずくまって、ねむることなどの話をききました。

きんぎょ や ふなが、いけのそこに、じっとしてい
 るのも、おなじことだそう
 です。また、木のめも、
 うろこのようなちゃ色
 のかわでつつまれながら、さ
 むい冬をすごして、やがて、
 あたたかな春がくるのをま
 っているのだそうです。



9 まさおのかるた

「にいさん、どうぶつかる
 たを作しましょう。」
 「それは、おもしろいね。
 いままで、まさおが、
 どうぶつについて、み
 たことや、しらべたこ
 とをそのまま、かるた
 にしてみまごらん。」

「4月は、おたまじゃくしや、ちょうちょがいますね。」
 「ひばりも、びいびいなくね。」
 「では、4月は、おたまじゃくし、ちょうちょ、ひばり
 の三つにきめましょう。」

おがわには おたまじゃくしが およぎます
 これは、どうでしょう。」

「うまい、うまい。では、にいさんも作るよ。」

なのはなに ちょうちょひらひら とびまわる
 「じょうずだなあ。」



「では、もう1つ。」

たかいそら ひばりがびいびい ないてます

「もう、4月ができましたね。では、5月にうつりましよう。」

「5月には、南の国から つばめ もやってくるね。」

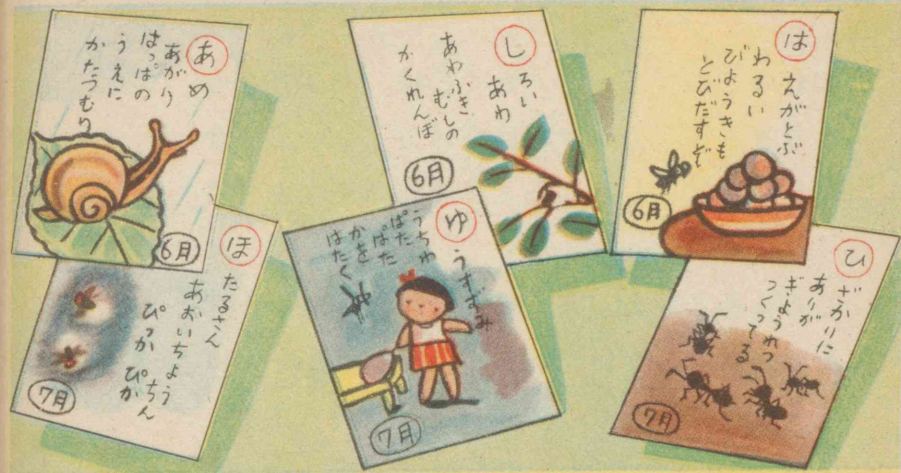
「みつばち も、ぶんぶんとぶでしよう。」



「むぎばたけに てんとうむしがいるのも、このころだよ。」

「では、つばめ、みつばち、てんとうむしにきめましよう。」

むぎのほに てんとうむしが ふたつみつ



みつばちは はなからはなへ ぶんぶん

「ぶんぶんは、よかったね。」

「つばめはどうしましょう。」

「こまったね。あつ、そうだ。」

つばめさん みなみのくから やってきた

「うまい、うまい。」

ふたりは、このようにして、6月、7月と、上のようになっていきました。8月から、だんだん、むずかしくなって、なんども、あたまをかかえて、考えこみました。やっと、つぎのようなうたが、できました。



8月

にわのきに じーじーなくのは あぶらぜみ
きりぎりす カンナのはたけで ないてます
かきねには しおからとんぼが やすんでる

9月

ころころと えんまこおろぎ ないてます
そらたかく すいすいとぶのは あかとんぼ
りーんりん かごのすずむし ないてます

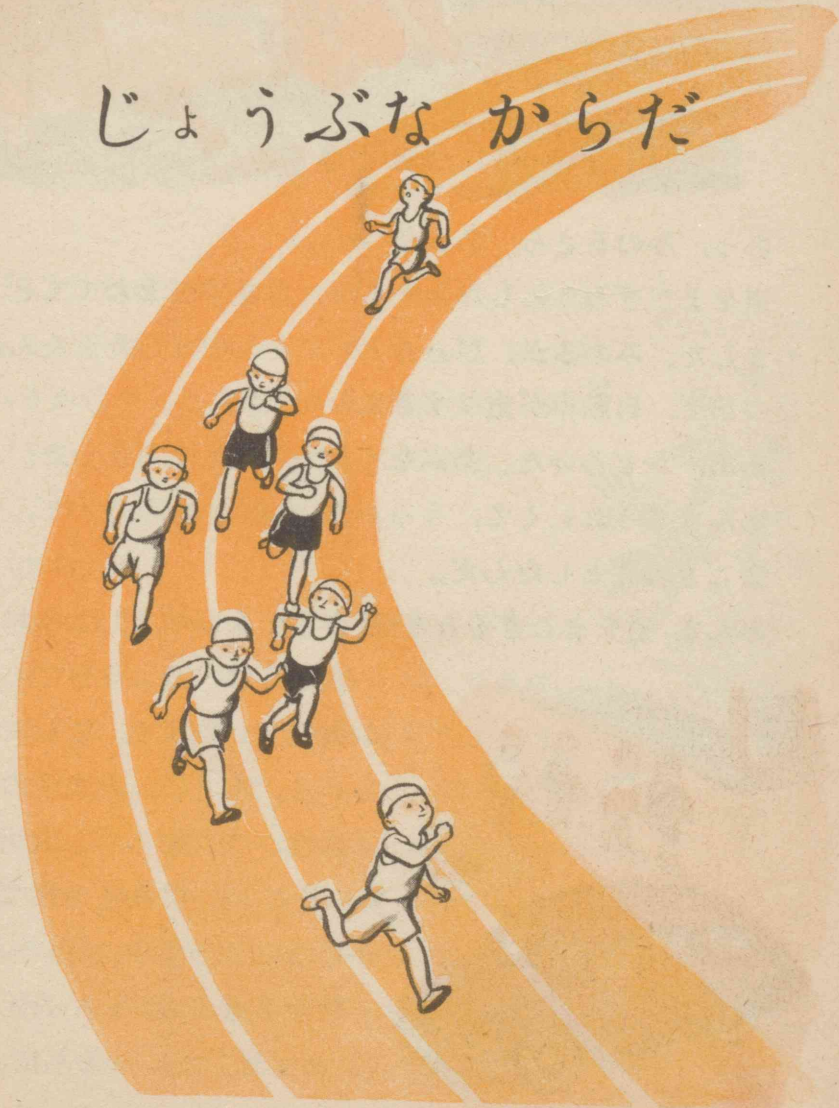
まさおたちは、このあと、どんなかるたを作ったでしょう。かるたができたなら、どんなあそびができるか、考えてみましょう。どうぶつぬき、どうぶつならべ、まい月の どうぶつあわせなどができますね。



三年生の理科

2

じょうぶなからだ





1 つみくさ

「あっ、みのるさん、あぶないっ。」

道をよこぎろうとしたみのるを、あき子があわててとめました。みのるが、びっくりしてたちどまったとたん、目の前を、自動車^{どう}車が走りすぎました。

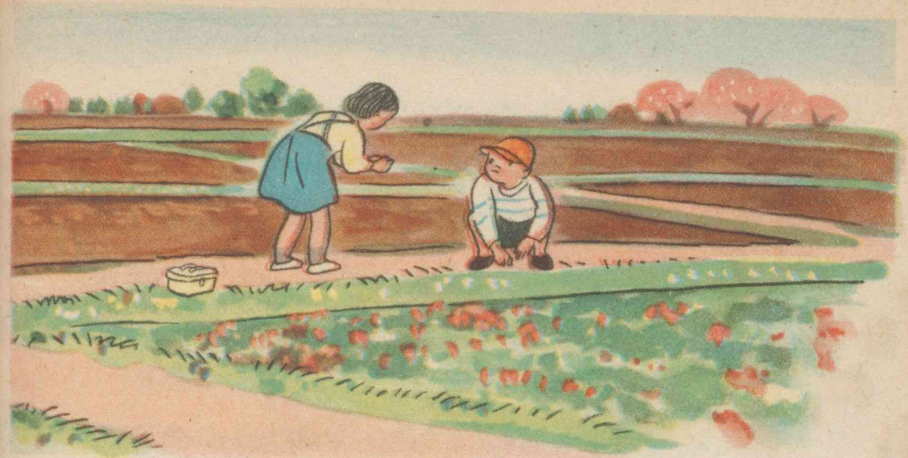
「ああ、おどろいた。あぶなくひかれるところだった。あんまりうれしくて、うっかりまわりをみないで、よこぎろうとしたんだ。」

「みんな、道をよこぎるときは、よく気をつけましようね。」



きょうは、日よう日で、お天気もいいので、よしお、みのる、あき子、みよ子の4人は、つれだって、大川のどてへ、つみくさにでかけるところです。

町をすぎて、ひろいたんぼにでました。一めん、



げんげが花ざかりです。あき子は、さっそく、それをつもうとして、たんぼに、はいりかけました。よしおはあわてて、

「そのげんげをとっちゃだめだよ。」と、ひきとめました。

「あら、どうして。」

「たんぼのげんげは、こやしにするために、わざわざうえてあるんだ。それに、よそのたんぼにはいたりするのは、よくないことだよ。」

たんぼのあぜや、道ばたで、いろいろなくさをつみました。みよ子のつんだき色の花をみて、みのるが声をかけました。

「あっ、それはきつねのぼたんっていうどくそうだよ。あそこにも、それによく似た花があるだろう。あれも、どくそう

きつねのぼたん



たがらし



どくぜり



ほうごぐさ

おおいめの
ふぐり

のげし

なんだよ。しるがついているといけないから、すぐ手をあらったらいいよ。」

どてにつきました。いろいろな花がきれいです。かぜがそよそよと、ふいています。みるは、思いきり大きく、せのびをしました。

「ああ、いい気もちだ。の原はいいなあ。

これからも、ときどきこようよ。」

「ええ。日光にあたらないと、じょうぶになれないって、先生がおっしゃったわ。」

「それに、の原は空気だっていいからね。」

ひと休みしてから、みんなで、また、くさをつみました。よしおは、すぎなをねごとほろろと、いっしょうけんめいです。あき子とみよ子は、よもぎをつみました。かえってから、くさもちをつくっていただくのだそうです。



よもぎ

よめな

たんぽぽ

つくし

すぎな

もう、おひるちかくなつたのでしょう。おなか がすいてきたので、お食事にしました。みよ子は、さっそく、おべんとうをひらきはじめました。それをみて、

「あら、みよ子さん、手をあらわなくっちゃ。」

と、あき子が、ちゅういしました。

「あっ、そうだったわ。お食事のまえには、かならず、手をあらわなくっちゃいけなかったわね。」

みんな、ながれの水で、手をよくあらいました。

よくうんどうをしたからでしょう、おべんとうのおいしいこと。こんなにおいしくいただいたのは、めずらしいことだと思いました。

食事をすませて、しばらくあそんでから、つんだくさを、ふろしきにつつんで、みんなはうちにかえりました。





2 むしば

先生「おや、のぼるくんはどうしたのですか。」

あき子「のぼるさんははがいたいので、お休みするそうです。きょう、はいしゃさんへいってくるって、のぼ

るさんのおかあさんが、おっしゃってました。」

先生「それは、いけない。むしばですね。」

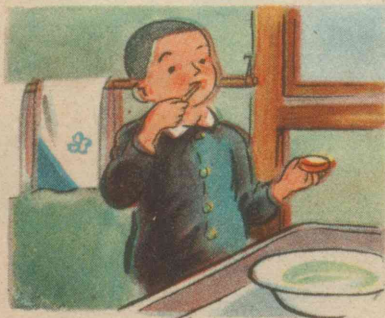
先生「むしばにならないようにするには、どうしたらいいでしょう。知っている人はいますか。」

みのる「いりこやこざかなのほねをたべます。」

先生「そう。はをじょうぶにするたべものをたべることもたいせつですね。そのほかに。」

よしお「はい、まい日、よくはをみがきます。」

先生「そう。はをみがくといいですね、きみは、いつもみがきますか。」



よしお「あさ、おきたときです。」

先生「ほかの人もそうですか。」

あき子「よる、ねるまえにも、みがきます。」

先生「そうですね。はのあいだに、たべもののかすがのこっていると、それが、いつか、むしばのもとになります。ですから、あさおきたときと、よるねるまえとに、はをみがいて、かすを、すっかりとることは、たいせつですね。」

よしお「それに、はをみがくと、さっぱりして、まえばのうらをとってもいい気持ちになります。」

先生「そう、口の中を気持ちよくしたり、はをうつくしくしたりするためにも、はをみがきますね。でも、なんといっても、かすをとることが、だい一です。では、かすをよくとるためには、どのように、みがいたらいいと思いますか。」

—みんな思い思いに、はをみがくまねをする—

先生「だめだめ。はブラシを、よこにだけ、こすったのでは、かすはなかなかとれませんよ。ほら、このえをごらんなさい。このえの1.2.3のじゅんにみがくのですよ。わかりますね。でも、このようにして、

おくばのかみあ
わせるところ



おくばのうら
を上下に



まえばのうら
を上下に



おくばのおもて
を上下に



まえばのおもて
を上下に



いくらよくみがいても、かすはのこります。それで、1年に2かいぐらいは、ぜひ、はいしゃさんに、みていただくなくてはなりません。そうして、はをきれいにしていただくのです。」

はいしゃさん「あき子さん、どうかしましたか。」

あき子「いいえ、べつに。でも、ほんとうに、なんともなっていないのかどうか、みていただきたいのです。」

はいしゃさん「おや、このはには、小さなあながあいていますね。むしばのこどもだな。これに気がつかないで、ほうっておくと、だんだん大きくなり、色が黒くなって、ほんとのむしばになりますよ。ちょっとおまちなさい。いま、すぐ、つめてあげますからね。」



はいしゃさん「はい、よろしい。」

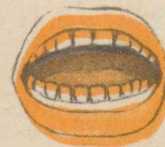
あき子「あら、もう、おわりなんですか。」

はいしゃさん「そうですよ。早いうちに、手あてをしたから、よかったです。ほらかがみて、じぶんのはをみてごらんささい。みんなきれいですね。ときどき、はがぬけて、あたらしいのがはえてくるでしょう。あたらしいこんどのはは、もう二度と、はえかわりません。ですから、だいにしなくてははいけませんよ。はのわるい人はたべものが、よくかめないでしょう。それで、おなかをわるくすることが多いんです。いはで、よくかんで、おいしくたべることですね。」

あき子「先生、ありがとうございました。このつぎは、いつきたらいいでしょう。」

はいしゃさん「そう、2学きのおわりごろでいいでしょうね。」

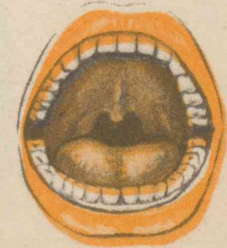
5さいぐらいのとき
のは



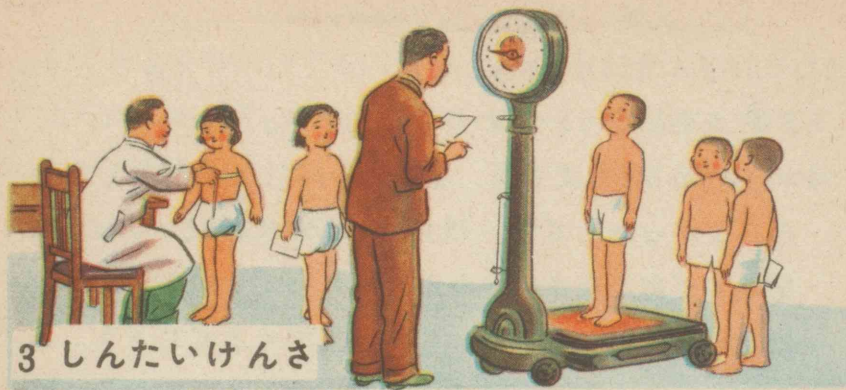
7・8さいごろ
のは



おとな
のは



こどものはとおとなのは



3 しんたいけんさ

学校で、しんたいけんさがありました。そのあとで、校い先生のお話がありました。

「きょうは、みなさんのしんたいけんさをしました。しんたいけんさは、みなさんがじょうぶで、大きくなっているか、どこかわるいところはないかをしらべて、りっぱなからだの人になってもらうためにするのです。はじめに、しんちょうとたいじゅうとむねまわりをはかりました。じぶんのしんちょうやたいじゅうがわかりましたか。これは、ぜひ、おぼえておきましょう。ここにかいてあるこのひょうは、みなさんぐらいの子どものふつうのしんちょうとたいじゅうです。じぶんのとくらべてごらんください。

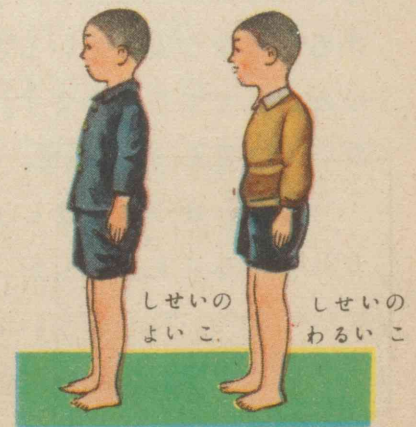
と し		7さい	8さい	9さい	10さい	11さい
しんちょう	男	115.4	121.5	125.2	128.2	137.3
	女	113.7	116.5	123.2	129.0	134.3
たいじゅう	男	20.5	22.4	24.7	26.1	29.7
	女	19.8	21.4	24.0	27.0	29.9

でも、このひょうより、すくなくとも、しんばいすることはありません。生れつき大きい人も、小さい人もあります。めかたでも、そのとおりです。ただ、いつまでもしんちょうやたいじゅうがふえないようなときには、なにかからだに、こしょうがあるのかもしれないから、よく、きをつけなければなりません。これから、まい月1かいずつ、学校で、しんちょうとたいじゅうとをはかります。

それから、みなさんのなかで、しせい のわるい人がいました。このえをごらんください。どちらのほうがよいしせいだと思えますか。いつでもからだを正しく、むねをはっているようにしましょう。

そのつぎに、目や耳をしらべましたね。目や耳は、ものをみたり、きいたりする、たいせつなところです。それなのに、あなたがたのなかで、目や耳のわるい人がありました。みなさんは目をだいにしなければなりません。くらいところや日なたで、本をよむと目をわるくします。

また、きたない手や、よこれたハンカチで目をこすると、目にばいじんがは



よいしせいに○を，わるしせいに×をつけましょう。



いることがあります。それで、手ぬぐい やハンカチは、いつもきれいなのをつかって、人にかりたりしてはいけません。

あなたがたは、すな のかけっこなんかしないでしょ。うね。目のなかに、すな や、どろ や、そのほかあぶないものがはいたら、たいへんです。目に ごみ がはいても、けっして、手でこすってはいけません。かるく目をつぶっていると、なみだ がでて、ひとりてにながれててしまいます。それでもとれないときには、おいしゃさんにいって、みてもらいなさい。

耳もたいせつにしましょう。耳の中が、まっ黒によごれている人もいました。かお をあらうたびに ゆび に ぬれてぬぐい をまいて、耳の中をふくようにすると、いつでも、きれいになっています。



上の え のこどもは、えんぴつ で、耳の中を、ほじっていますね。あぶない、あぶない。こんなことをして、耳の中のやわらかいところを、きずつけたりすると、いろいろなびょう気のもとになることがあります。また、あまりつよく、はな をかんでも、耳のびょう気になることがあります。」

校い先生は、しんたいけんさ のけっかについて、いろいろ、ちゅういをなさいました。あき子は、校い先生のお話のとおりに、じぶんが、気をつけているかどうかを考えてみました。

そして、あき子は、これからまい月、たいじゅう と、しんちょう とをひょうにかいて、からだ が大きくなっていくようすを、しらべようと思いました。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
しんちょう												
たいじゅう												

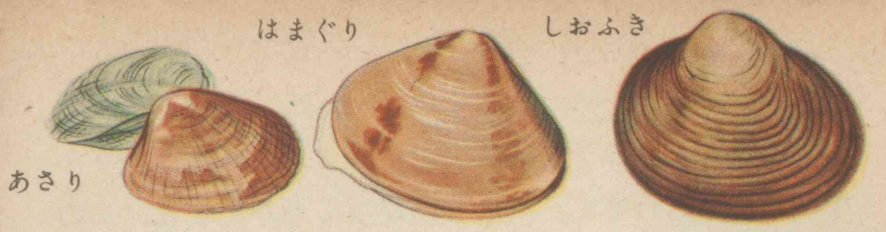


4 しおひがり

きょうは、たのしい しおひがりです。かいがんについたときは、まだ しお がひいていなかったのて、すなはまで、かいがら をひろってあそびました。もも色のや、白いのや、黒ずんだのなど、かいがら を、たくさんひろいました。そのうちに、水がずっとひいていきました。水のひいた



ところには、ところどころに、海そう がとりのこされていました。みんなは、したく をして ひがた にでました。あき子が、水の中にはいって、すな をほりますと、すぐ、大きな あさり がでてきました。みよ子とよしおは、しおふきを みつけました。



みよ子は、はじめ、あさり と しおふき のくべつが、なかなかつきませんでした。あき子におしえてもらいました。かいがらに、たての すじ や まだら がなく、ふくれて三角に見えるのが しおふき だそうです。

「あき子さあん、はまぐり よ。はまぐり がとれたわよ。」と、すこしはなれたところで、さちえがよびました。みんながいてみると、なるほど大きな はまぐり です。

それから、みんなは、むちゅうになってとりました。しばらくしてから、いわ のある方に向いてみました。いわ のまわりには、いそぎんちゃく や かに などいろいろいました。くぼんで いけ のように水のたまっているところは、水ぞくかんでもみるようです。みんなは思い思いに、しゃせいしました。男の子たちは、水の中にはいって、大きな石をひっくりかえそうと



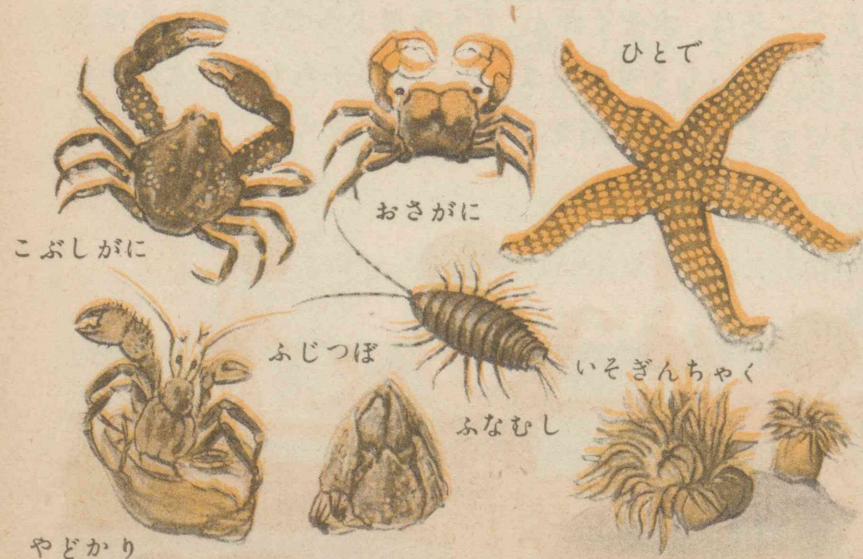
しています。石の下に かに がにげこんだのです。みんな
 まで、力をあわせて、やっと、ひっくりかえすと、石の
 下には、かに や やどかり、はぜ などがかくれていまし
 た。

気がついてみると、みのるの ゆび から、すこし ち
 がでています。石についていた かいがら で、きったの
 でしょう。

「こんなの、へいきだよ。」

と、いって、みのるは、その ゆび を、ペロリとなめよ
 うとしました。すると、

「みのるくん、そんなことをしてはだめだよ。」



と、そばにこられた先生が、おとめにな
 りました。そして、きず口を、水とう の
 水であらって、おくすり をつけ、ほうた
 い をしてくださいました。

「このように、ちょっとの けが でも、
 ばかにしてはいけませんよ。ほんとう
 につよい子は、いたがらないだけでな
 く、正しい手あてをするものです。」

と、おっしゃいました。

そのうちに、いままで水のそとにでて
 いたところが、だんだんかくれはじめま
 した。みんなは、はま にあがって、かえ
 りじたくにかかりました。

あき子は、とった あさり や はまぐり
 などを、あみ の ふくろ にいれました。

また、かいがら や、やどかり を、ハ
 ンカチにつつまながら、

「同じようなのをあつめて、おはじき に
 しようかしら。それとも、きれいな か
 いがら で、もよう を作ろうかしら。」
 などと考えました。



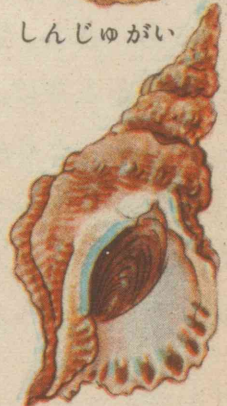
つめたがい



だんべいきさご



しんじゆがい



ぼうしほらがい



からまつがい



「きょうは、とてもおもしろかったわ。あさりやハマぐりのおみやげもどっさりあるのよ。」

しおひがりからかえったあき子は、ねえさんにいろいろ話しています。

「あきちゃん、おふろがあいているから、おはいり。」

「はい。」

あき子は、へんじだけしましたが、まだ話しています。

「さあ、さあ、早く、おふろにはいりなさいよ。つかれているときは、おふろにはいると、つかれが早くなおります。それに、もうすぐ、ごはんの時こくですから。」と、おかあさんがおっしゃいました。あき子は、もっと話していたかったのですが、みんなのめいわくになるといけないと思って、すぐ、おふろにはいりました。

1日じゅう、しおかぜにあたっていたせいか、すこしヒリヒリしましたが、さっぱりして、よい気持です。

おふろからあがって、みんなそろって、おいしくごはんをいただきました。



なにごとも、休むことがたいせつです。



ごはんがすむと、あき子は、すぐかいがらややどかりをもちだしてきました。かいがらをならべたり、やどかりをはわせたりしてあそびました。時間のこともわすれて、むちゅうであそんでいますと、とけいが、ボン、ボン、ボンと9時をうちました。おとうさんが、「あき子、もうねる時こくだよ。おもしろいからといって、いつまでもおきていることはいけませんよ。その上、きょうはつかれているから、よくねむることが、たいせつです。ぐっすりねむると、ねているうちに、つかれがなおって、あすはまた、元気にべんきょうができます。あき子、子どもは、1日に、なん時間、ねむったらよいか、知っているかね。」

「10時間でしょう。このまえ、先生からおききしてよ。」

「そう、でも、知っているだけでは、だめだよ。そのとおりやらなくてはね。」あき子は、すぐ、かいがらなどをしまつて、ところをしいて、やすみました。





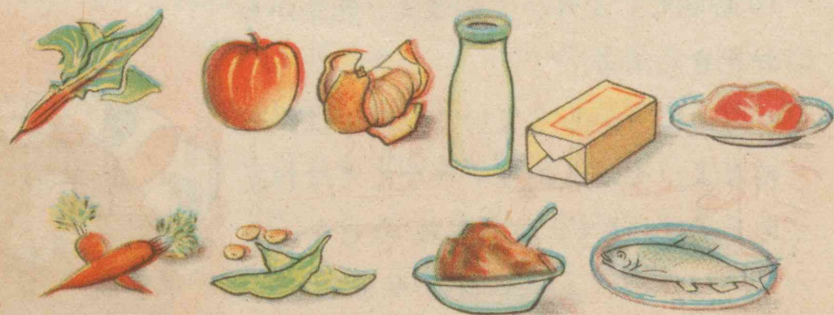
5 きゅうしょく

おひるのおべんとうの時かんになりました。きょうのきゅうしょくは、なんでしょう。まい日のこんだてをしらべてみましょう。

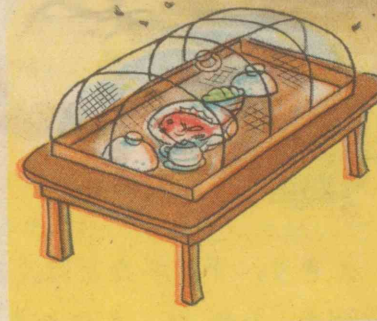
みなさんが、じょうぶなつよいからだになるためには、すききらいをいわないで、いろいろなものをたべなくてはなりません。ことに、子どもは、大きくなるため

えいようになるたべもの

このほかにも、いろいろあります。みんなで、しらべてみましょう。



はいをふせぎましょう。



に、ぜひ、たべねばならないたべものがあります。みなさんは、えのうちで、きれいなものがありますか。

学校きゅうしょくは、あなたたちにひつようなたべものが、たらなくならないように考えてあります。

あなたたちは、のこらずみんなたべますね。

おべんとうがすんでから、あき子たちは、がっこうのすいじしつを見せてもらいました。





えきり、チフスなどは、たべものからうつるびょう
 気です。そのびょう気のもとになるばいきんを、たべ
 もののところに、はこんでくるのははいです。ですから、
 すいじしつには、はいがはいらないように、とく
 に気をつけてあります。

ほかの人がつかったしょっきで、のんだり、たべたり
 してはきけません。もし、その人の口に、わるいばい
 きんがついていたら、すぐ、あなたの口の中にはいつて
 くるからです。それで、みんなでつかうしょっきは、
 つかうたびに、にえたったおゆの中に入れて、しょう
 どくします。にえたったおゆの中に入れて、
 ばいきんはしんでしまうからです。



あついときには、たべものがくさりやすくなり、この
 くさったたべものをたべたために、びょう気になるこ
 とがあります。それで、たべものは、なるべくつめたい
 ところにおいて、くさらないようにします。このために、
 学校のすいじしつには、大きなれいぞうこがおいて
 あります。

また、たべもののあるところには、よくねずみがや
 ってきます。ねずみはたべものをかじったり、よごし
 たりしてこまります。それで、たべものは、ねずみが
 はいらないようなところに、しまわなければなりません。

あき子は、学校のすいじしつで、いろいろなことを、
 べんきょうしました。その中でも、は
 いだけは、ぜひ、なくさなければ
 いけないと思いました。それ
 には、はいがあつまりそ
 うなきたないところ
 をなくしたらよ
 いわけです。

あき子は、
 どんなこ
 とをした
 でしょ
 う。





6 川あそび

「みよ子さん、とんとんいしけり によい石をみつけたわ。」
 「どれ、どれ。まあ、青くってきれいな石ね。わたしは、
 おはじき の石をあつめているのよ。」

きょうは、みんなで かわら に、えんそくにきました。
 あき子たちは、いろいろな石をひろっています。大きな石・
 小さな石・まるい石・しかくな石・ざらざらした石・すべ
 すべした石・赤い石・青い石・いろいろの石があります。

「ねえ、あき子さん。かわらには、どうしてこんなにた
 くさん石があるのかしら。」

「川の水でながされてきたのでしょう。」

「石がながされるかしら。」

まさおたち、おとこの子は、川の中に ていぼう を作
 っています。石や すな をはこんできて、ていぼう をだ
 んだんながくします。

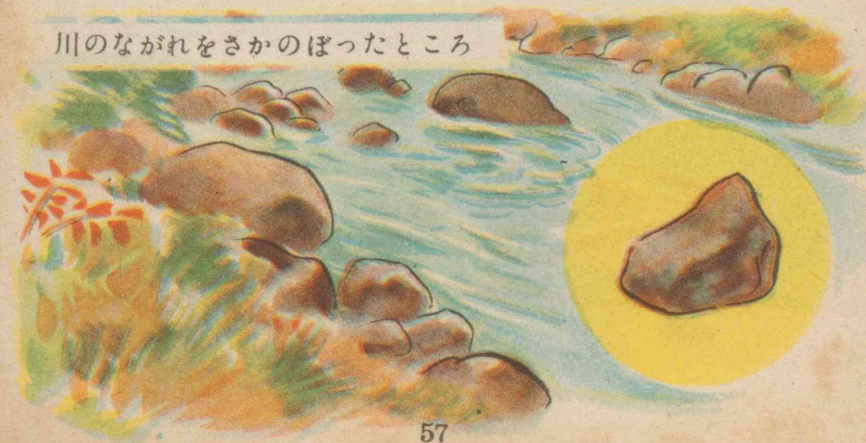


「わあ、たいへんだ。ていぼう がきれるよ。」
 せっかく持ってきた すな がざらざらながれていきま
 す。小さい石まで、ころがっていきます。

「水の力って、あんがいつよいんだね。」

「そうだよ。この かわら の石だって、みんな山から水
 がころがしてきたんだってさ。大水のときには、大き
 な石もどろどろころがってくるそうだよ。」

川のながれをさかのぼったところ



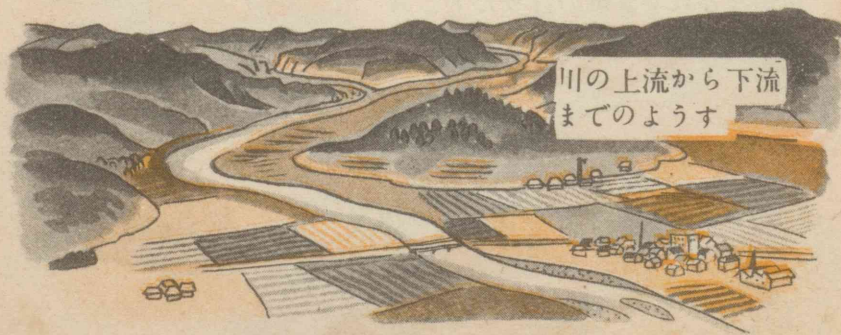


おひるのおべんとうをたべてから、広いすなはらへいきました。みんなで、かけっこをすることになりました。元気にうんどうしていると、だんだんからだがあつくなってきます。みんなうわぎをとりました。中には、シャツまでぬいだ人もいます。

しばらくあそんでから、かえることになりました。みんなが、シャツやうわぎをきようとしていると、先生が、

「ちょっとおまち、みんなげんきにうんどうして、あせがでているでしょう。あせをよくふいてから、うわぎをきないと、かぜをひきますよ。」

と、おっしゃいました。みんな、あせをふきました。しばらくすると、ひえびえとしてきましたので、いそいでうわぎをきて、ひろった石をもってかえりました。



7 あき子のびょう気



「おかあさん、みよ子さんのおうちへいってもいい。」

「あきちゃんは、さっきからだいぶせきをしているわね。」

「かぜでもひいたのではないかしら。」

「だいじょうぶよ。なんともないわ。ただ、ときどき、せきがでるだけなのよ。」

「ちょっとおまちなさい。ねつをはかってみましょかね。あら、38 どもありますよ。すぐ、おいしゃさんに、みてもらいましょう。」

「だって、わたし、おやくそくしたんだもの。いかないとわるいわ。」

「いけません。みよ子さんのところへは、ねえさんに、おことわりしにいただきます。ですから、きょうは、もう、おやすみなさいね。」

そこにはいると、あき子は、やっぱり、ぐったりとなっていました。じぶんでもねつのあることがわかります。せきはますますはげしく、かおは赤くなってきました。かかりつけのたけい先生が、さっそくいらして、しんさつしてくださいました。



「やはり、かぜのようです。じっとしずかにねている
のですね。」

と、おっしゃいました。あき子が、みよ子とのやくそく
をいうと、

「それは、おかあさんのおっしゃるとおりです。かぜ
は、目にはみえないウイルスという小さいばい
きんのためにおこるのです。あなたがせきをする
たびに、ばいきんは、口やはなから、たくさんとび
だします。もし、あなたのお友だちが、それをすいこ
んだら、お友だちも、また、びょう気になってしま



ます。あなただって、おもて
でばいきんをすったから、
かぜをひいたのですよ。」

と、おっしゃいました。

「かぜは、ゆざめをしたときに
よくひきますね。」

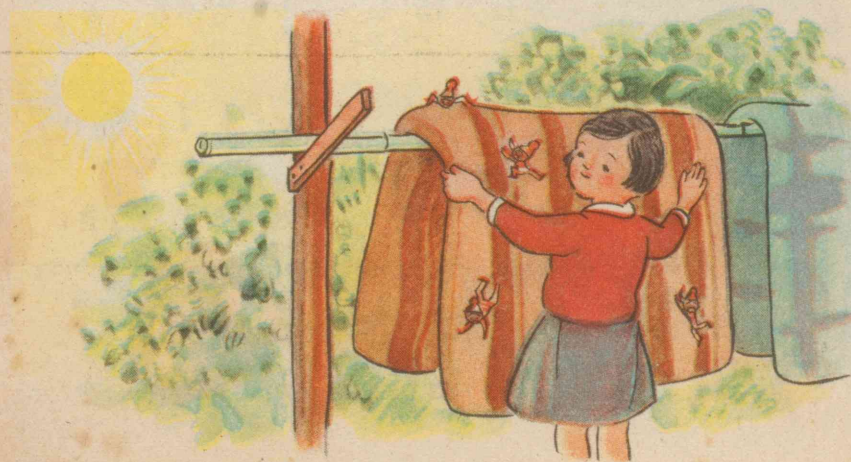
と、いうと、たけい先生は、
「そうです。かぜのばいきん

がとびこんできても、からだ がじょうぶなときは、ば
いきん はしんでしまって、びょう気になりません。
きゆうに、つめたい思いをしたり、ぬれた からだ を
よくふかなかったりすると、ばいきん にまけて、びよ
う気になりやすいのです。」

と、おっしゃりながら、手をおあらいになりました。

2,3日て、あき子のびょう気はなおりました。はやく、
おいしゃさんにみていただいて、よく手あてをしたから
です。おかあさんは、あき子のねていた ふとん を日に
ほしています。ばいきん は、日光がきらいで、日なた
に出されると、まもなくしんでしまいます。

あなたたちのまわりにも、いろいろな びょう気 の も
とになる ばいきん が、たくさんいるかもしれません。
ですから、ふとん や きものなどは、ときどき日にほす
ようにしましょう。





8 雪あそび

学校についたあき子が、うんどうじょうに出てみると、雪が、まだ、ちらちらふっている中を、みんな元気にあそんでいました。雪なげをしている人もいます。雪だるまを作るつもりなのでしょう。大きな雪のたまを、ころがしている人もいます。

あき子も、おもしろくなって、みよ子とふたりで、雪でうさぎをつくりました。むちゆうであそんでいると、「おや、おもしろそうだね。」

と、いう声がしました。おどろいてふりむくと、先生が、にこにこしながら、うしろにたっぺいらっしゃいました。「ずいぶん、つもったね。15センチもあるかな。きよ



うは、ひとつみんなで、アイスキャンディーを作るかな。」
「先生、雪をかためるんでしょう。ぼく、作ったことがあります。」
と、みのるがいました。

「いや、そうじゃない。この雪にしおをまぜてね。その中に、水をいれたしけんかんをさしておくんだよ。りっぱなアイスキャンディーができるよ。」

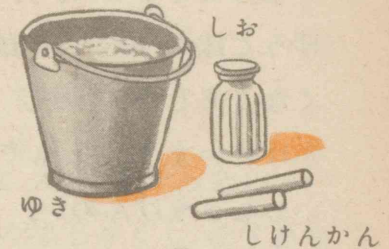
「おもしろそうだなあ。先生、早くやりましょう。」

いつのまにか、よしおもそばにいました。

みんなでバケツに雪をいれ、先生におしえていただいて、アイスキャンディーを作りました。

「さあ、みなさん、手をよくふいて、こすりあわせなさい。ぬれたままですと、しもやけができたり、ひびがきれたりしますからね。」

よういするもの



ゆき

しお

しけんかん



雪と しお をまぜる。



水をいれた しけんかん をたてる。



こおった しけんかん をあたたためて、とり出す。

おひるごろから、あき子は、左手の ゆび がむずがゆ
 なくなってきました。あまり気にもしないでしたが、
 ゆうごはん のころには、とてもたまらないくらいかゆ
 くなりました。小ゆび の つけね が、ぼうっと赤くはれ
 かけています。しもやけ にかかったのだなと思って、
 いっしょうけんめい、さすったり、こすったりしていま
 した。かきむしったりしてはいけないことを、あき子は
 知っているのです。でも、あんまりかゆいので、思わず
 かきむしりそうになるくらいです。それをみたおかあさ
 んが、

「あきちゃん、しもやけ なら、そんなにらんぼうにこす
 らなくても、手あてをすれば、じきになおるのよ。」
 と、おっしゃって、せんめんき におゆ をとってください
 いました。おゆ の中に手をいれる
 と、とてもいい気持ちです。

「あきちゃんのは、まだ、かるい
 からいいけど、くずれるようにな
 ったらたいへんよ。ときどき、
 手をこすりあわせていらっしゃ
 いね。」

おかあさんは、あき子の手を、
 よくふいて、くすり をつけてくだ
 さいました。



いろいろなもんだい

—どれだけ わかりますか—

いきもののかんさつ

1. おたまじゃくし には、どんな えさ をやったらいい
 でしょうか。つぎの中で、おたまじゃくし のすきな
 ものに○じるしをつけなさい。

ごはんつぶ いとみみず かつおぶし
 紙きれ 小虫

2. 青虫が、なかなかみつけにくいのは、なぜでしょう
 か。下の(1)(2)(3)(4)のうちで、正しいと思われるもの
 に○じるしをつけなさい。

- (1) ひるには、いないからです。
- (2) はっぱの色と、よく、にているからです。
- (3) かたちが、まわりのものと、よく、にているか
 らです。
- (4) つち の中にかくれているからです。

3. つぎの どうぶつ の中で、にたものどうしを、上と
 下とせんでつないてみなさい。

いぬ ばった きんぎょ とら ろば つばめ

うま ねこ ライオン がん ふな きりぎりす

4. つぎの の中へ、もじをいれなさい。
 つばめは になると、とおい の国から、
 日本へやってきます。そして、たまごをうんで、
 月ごろ、それをひなにかえします。ひなはだんだ
 ん大きくなって 月ごろ、おやつばめといっしょ
 に、とおい の国へとんでかえります。

5. ふなとどじょうを、くらべてみましょう。

(1) どんなところが、ちがいますか。

(2) どんなところが、にていますか。

6. 七つのとびらをしましょう。

(1) それはどうぶつですか。——はい。

(2) 小川にいますか。——いいえ。

(3) どうぶつえんにいますか。——はい。

(4) ぴよんぴよんとびますか。——いいえ。

(5) くびは長いですか。——はい。

(6) そのどうぶつは、アフリカにたくさんいますか。

・ ——はい。

(7) そのどうぶつは です。

7. つぎのいきものは、どのようにして、さむいふゆ
 をすごしますか。

かめ みのむし かたつむり かえる

りす いらが

8. つぎの文の正しいところに○をつけなさい。

(1) えんまこおろぎは

チンチロリン
リン, リン
コロ, コロ
ガチャガチャ

 といって、

なきますが、なくのは、

めす
おす

 だけです。

(2)

めす
おす

 は、おしりに長いけんをもっています。

9. つぎの文のうち、正しいところに○じるしをつけな
 さい。

(1) 青虫は、大きくなると、

ちょう
はち
とんぼ
ふな

 になります。

(2) やごは大きくなると、

はち
とんぼ
げんごろう

 になります。

(3) ぼうふらは大きくなると、

ちょう
か
いとみみず

 になります。

10. つぎの いきものは、どんなところに すをつくり
ますか。

あり () つばめ ()
はち () とげうお ()
りす () くま ()
みつばち ()

11. つぎの いきものには、どんな たべものを、やっ
たらいいでしょう。

やぎ () ひつじ ()
ぶた () にわとり ()
うさぎ () すずむし ()
うぐいす () きんぎょ ()

12. どうぶつなぞなぞをしましょう。

(1) わたしは、耳が長く、からだは白くて、ぴょんぴ
ょんととびます。わたしはなんでしょう。

(2) わたしは、冬になると、北の国からやってきて、
春になると、また、北の国へとんでかえります。わ
たしはなんでしょう。

(3) わたしは、おなかのふくろの中に、子どもをい
れて、そだてます。わたしはなんでしょう。

(4) わたしは、夏になると、木の上で、ミーンミーン
となきます。わたしはなんでしょう。

じょうぶな からだ

1. つぎなようなときは、どんなことにちゅういしたら
よいでしょうか。

(1) しんごうきのあるよつかどをよこぎるとき。

(2) こうつうせいりの人のいる道をよこぎるとき。

(3) しんごうとうもなく、こうつうせいりの人もいな
い道をよこぎるとき。

2. つぎのことのうちで、してはいけないことに×をつ
けなさい。

○ むやみにたんぼにはいってげんげをつむ。

○ たんぼのふちにさいているじしばりをつむ。

○ はたけのふちから手をのばして、なの花をつむ。

○ なばたけにはいってあおむしをとる。

3. つぎの文しょうの中で、あいているところに、こと
ばをいれなさい。

ときどきの原に出るのは、くうきも し、日
もよく ので、からだのために ことです。

4. 1日のうちで、はをみがくときをいいなさい。

5. つぎの文しょうの中であいているところにことば
をいれなさい。

はをみがくのは、 をうつくしくしたり、口の中
を気もち したりするためでもあります。かす
を ことがだい一です。

6. つぎの二つは、どちらがいいでしょうか。そのわけをいいなさい。

● は がいたくないときでも、1年に2かいぐらい、はいしゃさんにみてもらいます。

● ふだんは、はいしゃさんにいかず、は がいたくなると、大いそぎで、はいしゃさんにみてもらいます。

7. つぎのような本のよみかたのうちで、わるいものに×をつけなさい。

○ 目を本に近づけてよむ。

○ あかるい まどぎわ でよむ。

○ 日が本にあたるところでよむ。

○ うすぐらいのところだよむ。

8. 3人の子どもの中で、ほんとうにつよいのは、だれでしょうか。だれが、ほんとうにつよい子であるかをいいなさい。

○ 花子は、ちょっとのけがをしたときでも、おおげさにさわぎたてます。

○ まさおは、ちょっとのけがをしても、ばかにしないで、くすりをつけたり、そのほかの手あてをしたりしてもらいます。

○ ひろしは、ちょっとのけがぐらいは、大したこともないといってほうっておきます。

9. 川や かいがん などに行ったとき、みなさんは、つ

ぎのことのうちで、どれをしますか。

○ なにもかんさつしないで、はねまわります。

○ めずらしい いきものをみつけたら、手あたりしだいとつかえりませう。

○ おもしろい いきものをみつけても、むやみにとらず、なるべくそのままにして、よくかんさつします。

10. 下のことばのうち、ひだりとみぎとを、ちょうどあうように せん でむすびなさい。

○ 水およぎのときはあ

まりさむくならないう
ちに

○ たのしくしょくじを
してから

○ いっしょうけんめい
べんきょうしたあとは

○ そとをさんぽする。

○ こしかけたり、すわっ
たりして、ゆっくりやす
む。

○ 日のあたるところでこ
しをおろしたり、ねそべ
ったりしてやすむ。

11. つぎの文しょうの中であいているところにことばをいれなさい。

えきり、チフスなどのようなびょう気は たべもの から ます。そのびょう気のもとになる を たべもの のところに、はこんでくるわるい虫は、 です。

12. たべもの にすききらいをいってはいけないのはど
うしてですか。

13. 右のことばのうちで、左のことばにちょうどあてはまるものに○をつけなさい。

かわらのまるい石は

大むかしの人がはこんできた
ものです。
じめんの下からわいたもの
です。
山から川の水がはこんできた
ものです。

14. つぎのことばのうちで、かぜにかんけいのあるものに○をつけなさい。

せき はい ねつ はいしゃさん ばいきん
ゆざめ れいぞうこ

15. つぎの文しょうの中で、あいているところに、ことばをいれなさい。

しもやけができたとき、つめでかきむしるのは
おゆでそこをよく から、きれいにふき、それから をつけましょう。

Copyright 1950, by
The Gakkō Toshō Co., Ltd.

All rights reserved

The text of this publication or any part thereof
may not be reproduced in any manner whatsoever
without permission in writing from the publisher.

本書の指導書・ワークブック・註釈書並びに
これに類するものの無断発行を禁ずる。

小理 300

Approved by Ministry of Education

(Date 1950)

昭和25年 月 日 文部省検定済 小学校理科用

三年生の理科上

編修者

東京都文京区大塚窪町
東京高等師範学校附属小学校内

財団法人 教育図書研究会

理事長 東京高等師範学校教授 佐藤保太郎

担当執筆者 東京高等師範学校教諭 近藤 釧三

" 丸本喜一

" 赤松彌男

" 荻須正義

昭和25年 月 日印刷

定価

昭和25年 月 日発行

著者 財団法人 教育図書研究会

会長 務台理作

東京都港区芝三田豊岡町八番地

発行者 学校図書株式会社

代表者 川口芳太郎

東京都港区芝三田豊岡町八番地

印刷者 図書印刷株式会社

代表者 川口芳太郎

東京都港区芝三田豊岡町八番地

発行所

学校図書株式会社

広島大学図書

0130449625



財団法人 教育図書研究会編